

2 観光振興の取り組み

(1) 神戸における着地型観光の推進

平成22年度より、地域関係者の連携による神戸港エリアの活性化に取り組んでいる「YOKOSO みなとまち神戸コンソーシアム」(事務局：神戸運輸監理部)では、平成28年度も引き続き、みなとまち神戸の美しい街並等の魅力を活かして地域のにぎわいを創出することを目的とした「みなとまち神戸ロマンティック事業」に取り組んだ。YOKOSO みなとまち神戸コンソーシアムの下に設置した「みなとまち神戸ロマンティック事業WG」において、みなとまち神戸ロマンティック事業に係るコンセプトストーリーの策定や情報発信のあり方等について議論を重ね、平成28年2月にみなとまち神戸の魅力を広く発信するツールとして開設された公式Facebookページの充実を図った。

(2) 瀬戸内海観光連携推進会議による瀬戸内の観光活性化

平成24年のNHK大河ドラマに「平清盛」が決定したことを受けて、近畿運輸局、神戸運輸監理部、中国運輸局、四国運輸局、九州運輸局の西日本広域の連携組織として平成23年7月に設立された「「平清盛」瀬戸内連携推進会議」については、大河ドラマが終了した平成25年4月から「瀬戸内海観光連携推進会議」に改称し、瀬戸内海の観光活性化を図っている。

平成28年度事業として、瀬戸内海の島々等に寄港するクルーズの推進を目指す「瀬戸内クルーズセミナー」を平成28年11月15日に姫路市で開催するとともに、平成28年10月21日に広島県福山市において同会議を開催した。また、瀬戸内海地域における寄港地のセールスポイント等を掲載した「瀬戸内クルーズ寄港地紹介マップ」について、海外船社等へのアピールを図るべく、近畿運輸局の協力を得て英語版を作成した。

(3) 観光振興・地域づくりに係る調査事業

平成28年度「観光地域動向調査」として、「姫路港におけるクルーズ客船の誘致拡大に向けた調査」を実施した。

これは、「訪日クルーズ旅客数を2020年に500万人」という政府目標の達成のために、今後、全国各地の地方港の活用による需要分散が鍵となることから、世界遺産「姫路城」を有する姫路港において、クルーズ客船の誘致拡大に向けた地域の取り組みに資する調査として実施したものである。この調査においては、調査検討委員会による誘致拡大の具体的な方策として、姫路港の特性と現状にあったターゲットの選定、官民連携による誘致組織の機能強化、戦略的なセールスの実施、受入環境の整備及び姫路港の強み発掘、地元事業者と連携した売れる仕組みづくり等を示した。

(4) 観光人材の育成

地域づくりを担う人材や観光産業が求める人材の育成を図るため、観光人材育成連携協定を締結している流通科学大学1回生を対象に、新入生が観光について興味を持てるようなカリキュラム「教養基礎／観光の楽しみ」において、平成28年7月、神戸運輸監理部として2コマの講義を行った。